

招請者氏名 Luigi Cominelli

所属機関 Università degli Studi di Milano (University of Milan, Statale), Aggregate Professor

招請期間 2017年11月1日～2017年11月22日

ルイジ・コミネリ教授は、11月2日から22日まで明治大学に滞在し、その間に以下の3つの研究報告をし、明治大学および東京首都圏の大学の研究者との研究交流を行った。

“Framing Choices to Influence Behavior : A Debate on « Nudging » and Regulation”

「行動に影響を与える選択フレーミング―「ナッジ」と規制をめぐる議論」（通訳有）

2017年11月10日（金）午後1時30分～3時10分

駿河台キャンパス・アカデミーコモン8階398B教室

参加者数：21人

行動経済学のなかで話題になっているナッジをテーマとして取り上げ、法による行動規制の手段として、刑事制裁や民事賠償のようないわばハードなサンクションに代わるソフトな方法としての利用可能性を論じた。コミネリ教授は、ナッジを積極的に利用していくことを考えるべきであるという立場であるが、同時に、ナッジはハードなサンクションと異なり、規制対象者が知らないうちに一定の方向に行動が誘導される可能性があるものであり、そこに濫用の危険性も存在することも指摘された。

“Italian Mediators in Action: The Impact of Style and Attitude”

「イタリアの調停員：そのスタイルと態度の影響」（通訳無）

2017年11月11日（土）午後2時～4時

駿河台キャンパス・リバティタワー7階1071教室

参加者数：13人

EU加盟国は、民事：商事紛争の処理のために調停を導入することが義務づけられており、イタリアにおいても特定の種類の紛争について調停手続が導入された。本報告では、この調停を実際に担う調停員を対象に実施された全国的な質問票調査の結果の一端が報告された。調停員の調停スタイルや紛争に対する態度にはいくつかの類型的な違いが見いだされたが、それらは調停が成功するかどうかはほとんど関連がないこと、また、ビジネスや経済学の学位保持者が法学の学位保持者よりも調停の成功率が高いことが分かった。これは、調停員としての訓練そのものよりも、それ以前の教育が調停のやり方に影響していることを示している。イタリアの調停は日本の調停とだけでなく、80年代以降日本にも入ってきている英米型の調停とも異なっており、そのこと自体興味深かったが、イタリアにおいても実際の調停のプラクティスと調停員が職業イデオロギーとして主張していることの間にはズレがあるということで、そのことを考慮に入れた調査結果の分析は極めて興味深いものであった。（本研究会は日本法社会学会関東支部と共催）

“Society, Biology, and the «epigenetic bridge»”

「社会、生物学、および『エピジェネティックな架橋』」（通訳有）

2017年11月17日（金）午前10時50分～12時30分

駿河台キャンパス・グローバルフロント3階403N教室

参加者数：10人

この報告では、文理融合の試みのひとつとして、社会学と生物学の統合可能性を論じた。近年、進化論がその本来の生物学の分野だけでなく、ミームについての議論に見られるように、社会科学が対象とする減少についても適用されるようになってきている。本報告は、遺伝子の発現効果は環境に左右されるという仮説、および、そうした環境による変化

は遺伝子の変化をもたらす次世代に伝えられるという、ラマルク主義の復活を主張するものである。前者の仮説は環境が社会的影響を免れない以上、遺伝子の発現効果に社会が影響するという主張は受け入れられやすいが、後者については疑問とする意見もあり、活発な議論が行われた。

コミネッリ教授は、イタリアの法社会学界の将来を担う研究者の一人であり、これまでもWTOにおける国家間の交渉の経験的研究や商事仲裁の研究などを行っている。今回の来日にあたっては、最新の経験的研究であるイタリアの調停についての実証研究の成果を持参していただき、また、いま行っている先端的な理論的研究についても報告をしていただいた。若手研究者の良い刺激になったと思う。この機会を提供していただいた明治大学国際連携機構および国際交流基金に御礼を申し上げます。また、コミネッリ教授の滞在にあたっては、法学部の比較法研究所の後援を得ることによって、教授にとって快適な研究環境を確保することができた。後援をしていただいた比較法研究所（所長：中空壽雅教授）に御礼を申し上げます。